

接 続 期





5 保幼小接続期カレンダー

年長後半						小学校入学後					
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月

ポイント 各研修会や交流会を通して人と人がつながる活動と幼児期から学童期へとつながる学びについて、接続期の1年間をイメージしてみましょう。

月	保育士や教諭同士が つながる活動	幼児と児童、保護者同士が つながる活動	幼児期から学童期へと つながる学び
10月	<p>保幼小合同研修会</p> <p>接続期の子供の成長について幼児期の遊びや生活が小学校での学習や生活にどのようにつながっていくのか共通理解を図る。</p> 	<p>交流活動</p> <p>児童が幼児を招待して交流活動を実施する。</p> 	<p>小学校教諭による 保育参観・話し合い</p> <p>参観のみではなく意見交換会を実施して互いの教育や保育についてより理解を深める。</p> 
11月		<p>児童は活動後に感想を絵や文でまとめ、相手がどのように感じていたか等を視点としながら活動を振り返り、自身の生活や次の活動に生かす。</p>  <p>振り返り（幼児・児童）</p>	<p>幼児教育の理解</p> <p>幼児期の教育は「環境を通して行う教育」を基本としている。</p>  <p>身近な動植物との触れ合い</p>
12月	<p>保育所や幼稚園、認定こども園合同の研修会</p> <p>保育を通じて育てるべき子供の姿や目標等について共通理解を図るなど横のつながりも意識する。</p> 	<p>交流会の活動後に事後検討会を開催する。</p>  <p>振り返り（教諭等）</p>	<p>遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示すねらいが総合的に達成されるようにしている。</p>  <p>季節の変化と事象への関心</p>
1月			
2月	<p>小学校との引継ぎ</p> <p>卒園（所）後に入学する小学校教諭との引継ぎをする。</p> <p>子供の成長の様子について共有する。</p> 	<p>幼児による学習参観</p> <p>4月に入学する小学校の授業を幼児が参観する。</p> 	
3月			

月	保育士や教諭同士が つながる活動	幼児と児童、保護者同士が つながる活動
4月	<p>幼稚園教諭等による 小学校の学習参観</p> <p>参観と事後の話合いを通し、園（所）での遊びや生活が小学校入学後の子供の姿にどのように関わってくるのかイメージする。</p> 	<p>保護者同士の交流</p> <p>懇談会等の機会を捉えて、保護者同士の交流を図り、相互理解や連携等を促す。</p> 
5月		<p>交流活動</p> 
6月	<p>市町村主催の 保幼小合同研修会</p> <p>保幼小合同研修会で接続期や連携について意見交換し、課題や工夫について共有する。</p> 	<p>交流活動</p> <p>児童が幼児を招待して交流活動を実施する。児童が小学校の様子を紹介するなど、一緒に活動を楽しむ。</p> 
7月		<p>親の学びのプログラム</p> <p>親同士の交流を通じた学びの機会を提供する。 (宮城県家庭教育支援チーム)</p> 
8月	<p>ワークショップでは、話合いの内容を模造紙にまとめ、グループ内、あるいはグループ間でも意見の交流をする。</p> 	
9月		

幼児期から学童期へと つながる学び
<p>幼児教育の理解</p>  <p>幼児はチーム分けやルールなどを自分たちで相談し、折り合いをつけながら遊び、人とよりよく関わる力を養う。</p>  <p>友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしていく。</p> 
<p>幼児教育の理解</p>  <p>幼児期の経験を基に小学校では、課題解決に向けて仲間と対話をしながら学習を進めていくようになる。</p>